



京葉動力労働組合

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.12.25 No. 3326

京葉線を制し闘いへ！ 京葉支部 第3回定期大会

動力千葉京葉支部第三回定期大会は、一月二七日闘いの皆・動力車会館において開催され、組織根絶攻撃粉碎、「九一・三ダイ改」阻止へ向けた、ストライキも辞さず闘う方針を全体で確認した。

議長に半田幸夫氏を選出したあと、冒頭あいさつに立った深見支部長は、「昨年一月七日京葉支部結成以来、JR体制との対決を通して緊張感をもって闘い抜いてきた。現在JR体制崩壊の気運は、東海・西日本の状況を見ても明らかであって、来年こそ組織拡大に向けて本格的にうって出よう」と力強く訴えた。

続いて、来賓として本支部中野委員長は、「京葉線は、あらゆる意味において重要な線区となっている。三月ダイ改における特急の経路変更は、労務政策としての側面・スト破壊の要素を持ちえていると言える。これから京葉線を制するものが、首都圏を制するものとなる。JR体制打倒のこのチャンス逃さず、倍々ゲームで組織拡大に出ていく必要性と必然性はより明確となってきた。現段階の状況は「九一・三ダイ改」をめぐる要求の骨子は、①悪らつな業務移管攻撃に対しては、組織の総力をあげて闘い

抜く、②無謀なスピードアップに対しては、運転保安確立をメインスローガンにして闘い抜く、③強制配転者の原職奪還の道すじを確立させる、④高令者対策の確立を求め闘う、ことである。

そしてこの闘いは、JR当局・JR総連結託体制を打倒する闘いと大きく結合させることを通して、要求の解決を貫くものとなる。JR体制の亀裂は、今や修復できない状況となっている。

京葉支部新役員

執行委員長		執行副委員長		書記長	執行委員				特別執行委員	乗務員会長	会計監査員	
深見 四郎	伊藤 詔一	野村 康哉	山田 護	中村 康幸	桜井 照夫	吉野 道夫	半田 幸夫	高田 昌史	徳田 精孝	関 寿	渡辺 進	

清算事業団闘争をけん引したわれわれの闘い、さらには分割・民営化攻撃との約五年間の闘いが、花開き結実する時期にきている。九〇年代に向かつて戦略的に前進し、京葉線の重要性を生かして柔軟かつ戦闘的に闘ってほしい」とあいさつを受けた。

「持株会」

への強要を許すな！

JR東日本本社は、二月一五日まで受けつけていた「持株会」への入会手続きを年末まで延長した。入会者が五〇%にも満たなかったことが延長の理由であったようである。それにしても、JR総連の組合員だけでも七割近いというのに、この結果は、革マルと当局内革マル結託グループによる支配の危機的な現実を鮮明にあらわしていると言える。

以降、持株会入会を「踏み絵」のように強制していくやり方が各現場で行われている。

言うまでもなく「持株制度」の狙いは、企業意識注入にある。当局の説明書にもあるとおり、「持株会」だって『値下り』の場合の保障はありません。でも、株価の基礎となるのは何よりも会社の

経過報告・決算報告・運動方針・予算を提起のち、質疑に入り……

①京葉線スピードアップの問題について、

②物販組織内の取り組みについて、

③処分問題―組織分断攻撃との対決について、

④組合基本権・職場抵抗闘争の取り組みについて、

⑤西日本における時短・スリット勤務について、

⑥支部体制確立・任務分担の明確化について、等々積極的かつ熱のこもった討論の中から、意志統一を図ったのである。

本格的なJR体制打倒へ！ 動力千葉の運動の浸透を通して、組織拡大に向けて京葉支部は一致団結して前進する！

業績です。社員の皆さんの努力により、会社の業績が向上していけば、『値上り』も期待できます。――要するに、「株を上げたかったら身を粉にして働け、会社と社員は一体だ」と言うのである。

しかし、それ自身が全くのまやかしにすぎない。株売却は、そもそも膨大にふくれあがった清算事業団の赤字の一部を帳消しにするのが目的である以上、相当高値で売られることはまちがいない。しかも、新幹線売却（JR東日本が三兆円！）問題で、向こう三〇年間のリース料を債務返済の一部にあてるとした法律を、わずか四年で改訂するといふのである。

来年は、清算事業団の債務問題も含めて、「何のための国鉄分割・民営化だったのか」問われざ

るを得ない。さらに、合理化につぐ合理化によって危機にたつ安全問題がいつ火を吹くのか、ぬきさしならないところまできたJR各社間の利害対立がどこまで進むのか、いつ爆発するかわからない異常な労務政策、そして、贈収賄等の疑いですでに警察の捜査の手がのびていると公然とウツリされる経営陣など、二のNTT株になる。とは間違いない。結果、つもツケは、額に汗し、働く者にまわってくるのである。つい最近もNTT株で大損した人が、腹いせに自宅周辺に放水してまわり逮捕された事件が報道されたが、こんなことが今度はJRをめぐる起きかねないのだ。

まさに「長期的な財産形成」などというJRのうたい文句は笑止千万というしかない。